

FY2026 事業説明会

SHARP Corporation

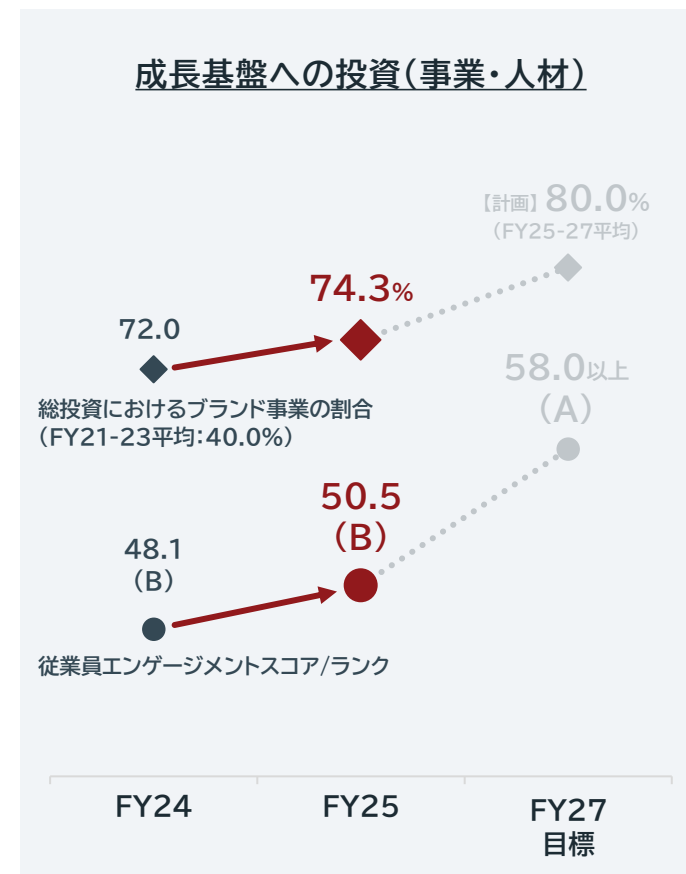
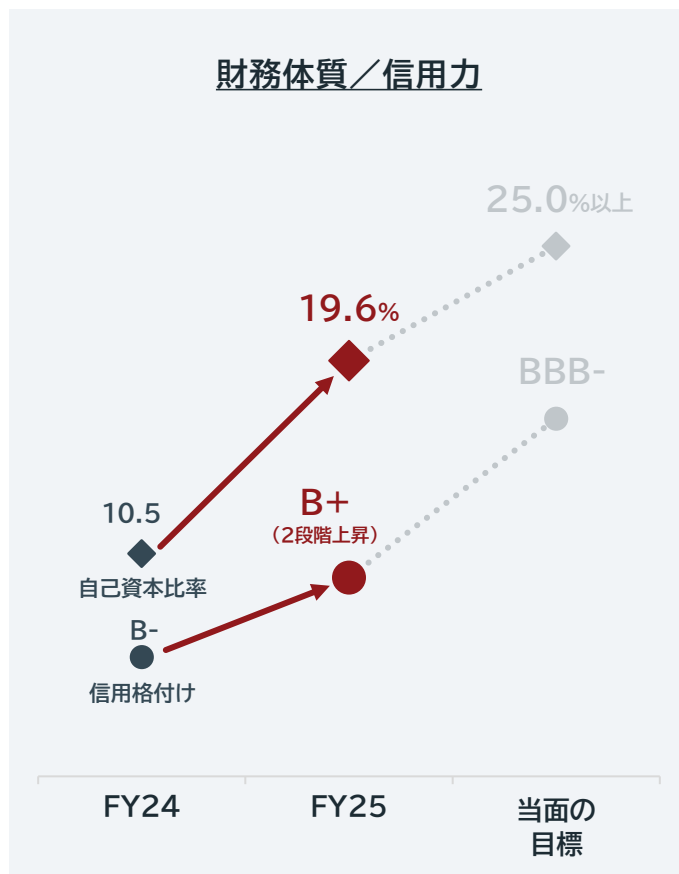
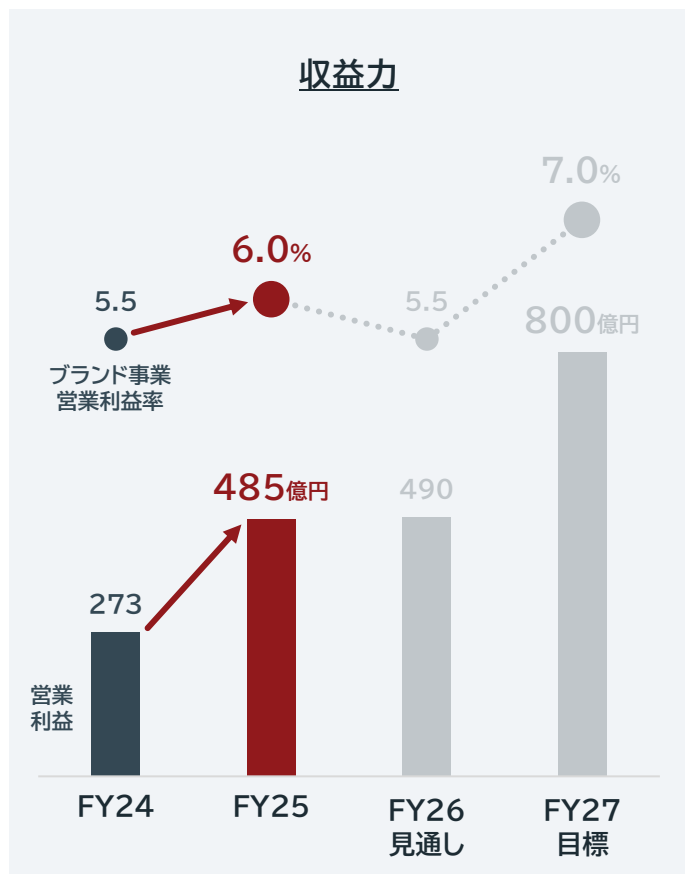
2026年6月9日

再成長に向けた取り組み

社長執行役員 CEO

河村 哲治

収益力/財務体質が改善し、成長基盤への投資も伸長するなど、**再成長の土台づくり**が着実に進展。
 今後は**成長力強化**を本格化



■ 目指す方向性

ひとの願いの、半歩先。

SHARP

特別な一日ではない。

シャープは、ふつうの一日を見つめています。

なぜならふつうの一日こそが、その人の人生になる。

名もなき日々の中にこそ、人々のすなおな感情、胸に仕舞っていた思い、
夢や希望がたくさん詰まっていると思うからです。

ひとの願いをベースにしながら、ちょっとだけ驚きのあるものを。

意表をつくような先回りを。でも、あくまでも、ちょっとだけ。

言い換えるなら「半歩先」。

それは、小さな声がちゃんと聞こえる距離のこと。

何かがあれば手を握ることのできる、そんな立ち位置のこと。

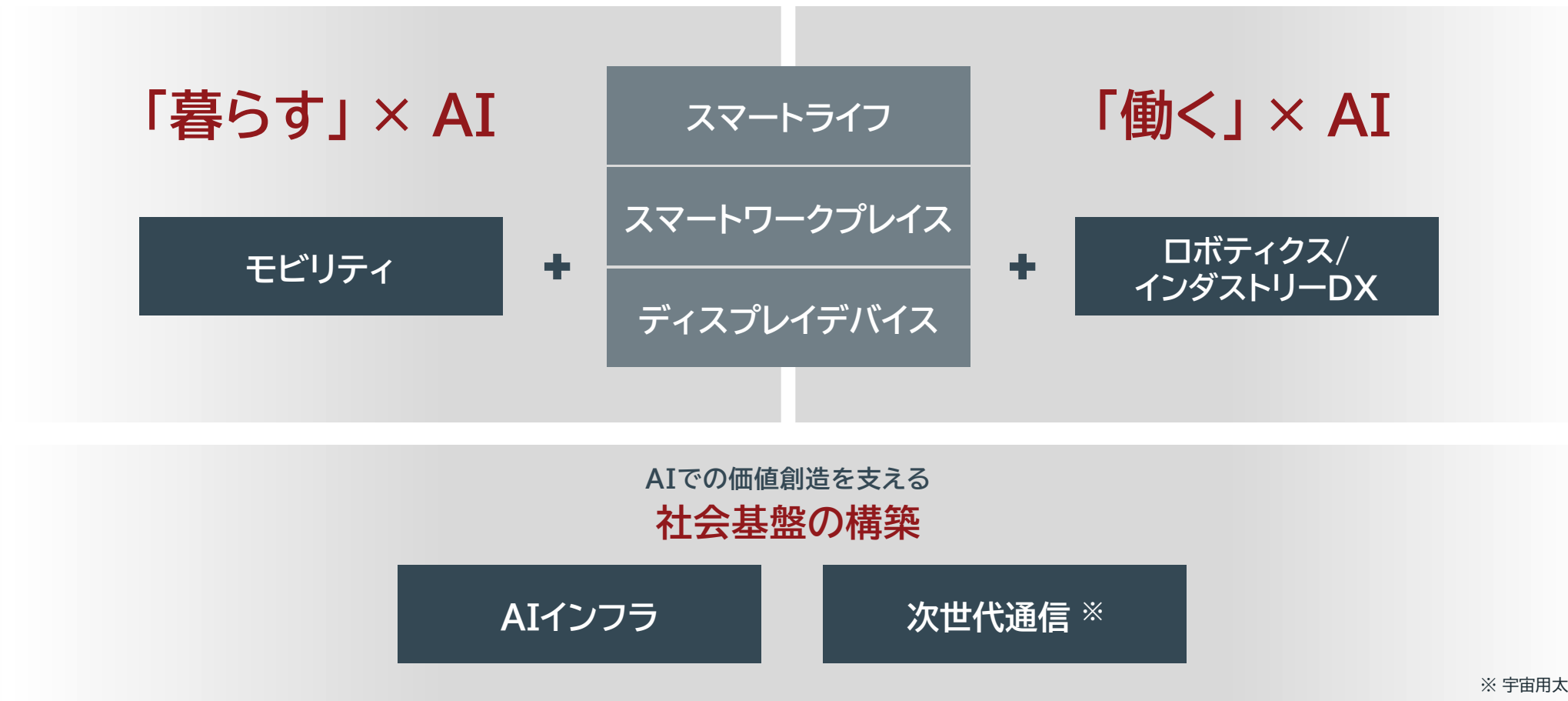
思えば、朝起きてから夜寝るまでの、あらゆる時間に

寄りそっているシャープ。だからこそ、あなたの日常のすべてを、

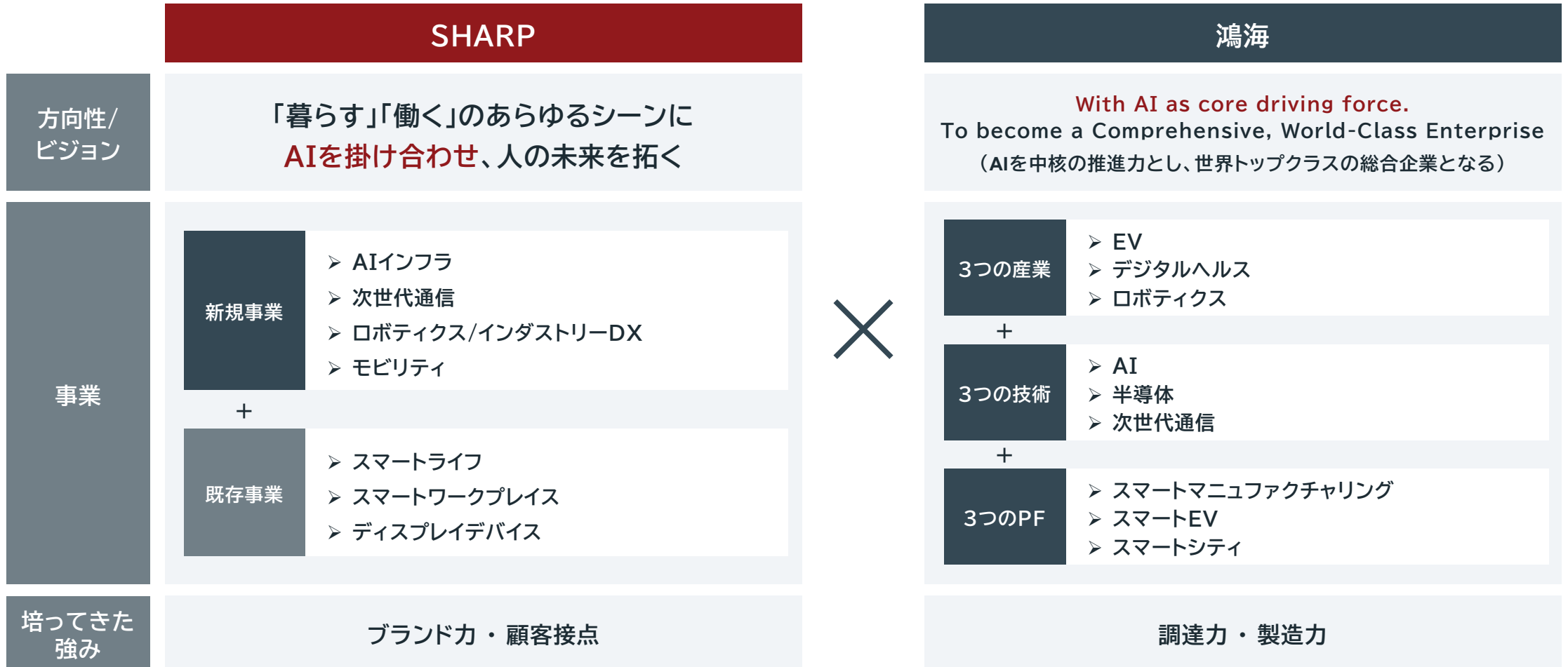
半歩ずつ、しっかり未来へお連れします。

誰ひとり、取り残すことなく。

「暮らす」「働く」のあらゆるシーンにAIを掛け合わせ、人の未来を拓く

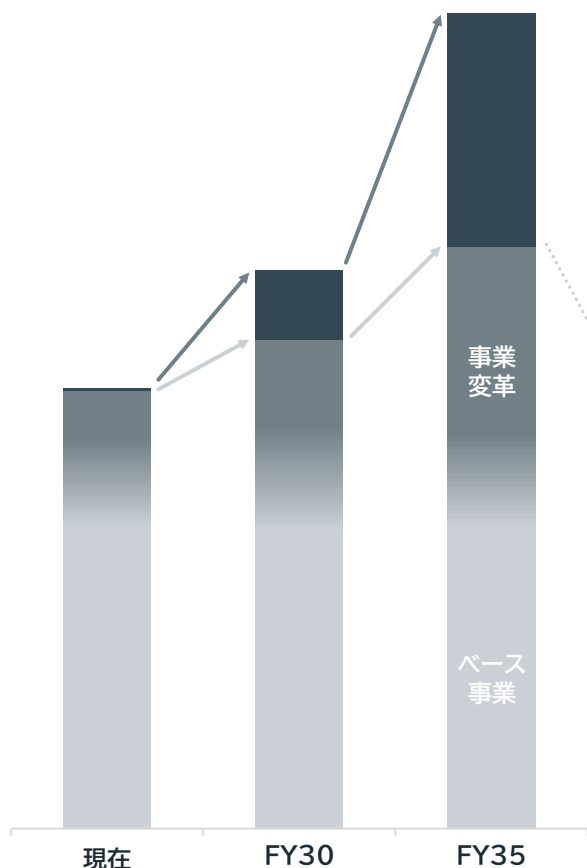


AIを核とした両社のビジョンの実現に向け、
互いの強みを融合し、各事業の成長を飛躍的に向上



「暮らす」「働く」を起点に、事業構造を**成長型**に転換

事業構造のイメージ



新規事業

- AIインフラ
- 次世代通信
- ロボティクス/インダストリーDX
- モビリティ

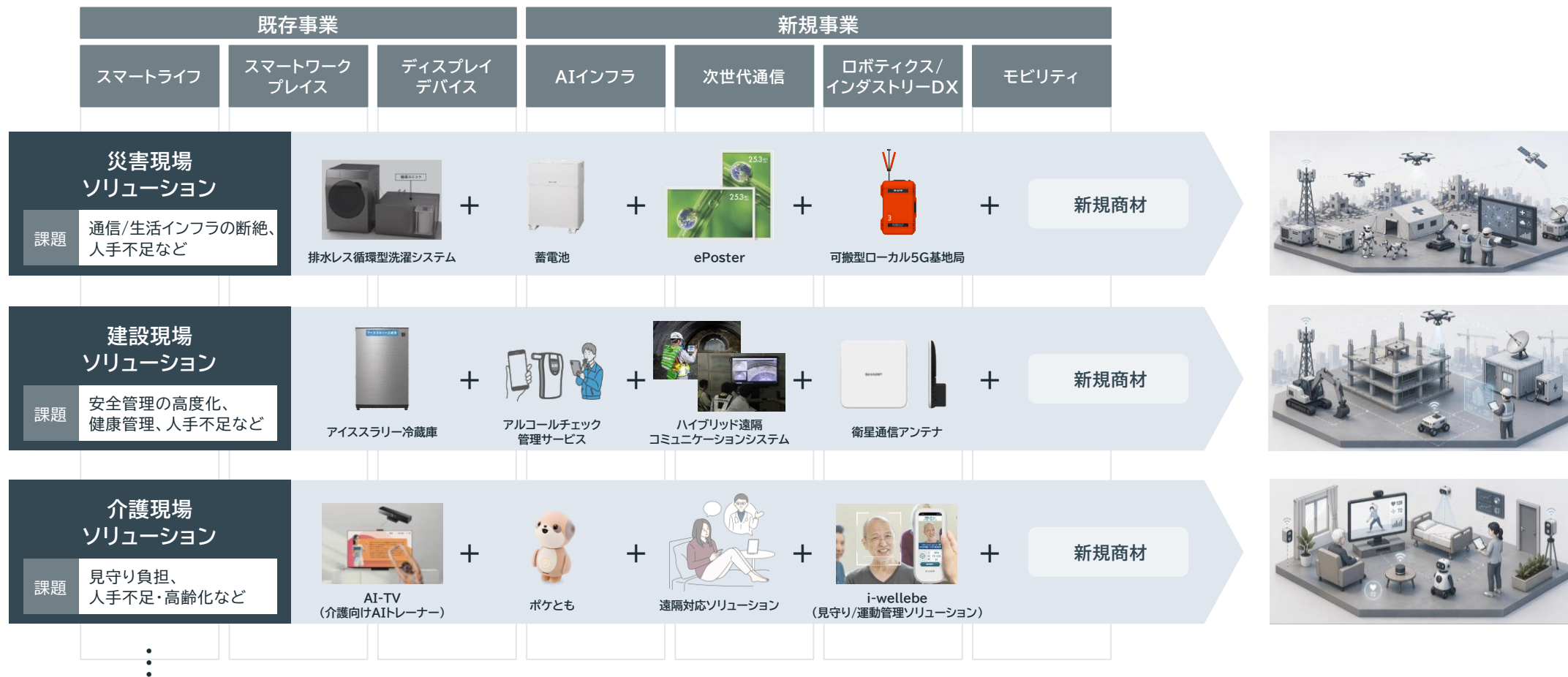
- ✓ 「暮らす」「働く」の顧客接点の拡張と、AI活用の基盤構築に向け、当社の強みを活かせる新たな産業領域に挑戦
- ✓ 鴻海をはじめとするパートナー企業との連携を軸に、**飛躍的成長**を目指す

既存事業

- スマートライフ
- スマートワークプレイス
- ディ스플레이デバイス

- ✓ **顧客接点の強化**とAIを核とした**事業変革**を推進し、着実な事業成長と収益性向上を実現

自社が保有する幅広いハードウェアやサービスを強みに、
顧客課題に対応した**総合ソリューション**を最適構成で提供



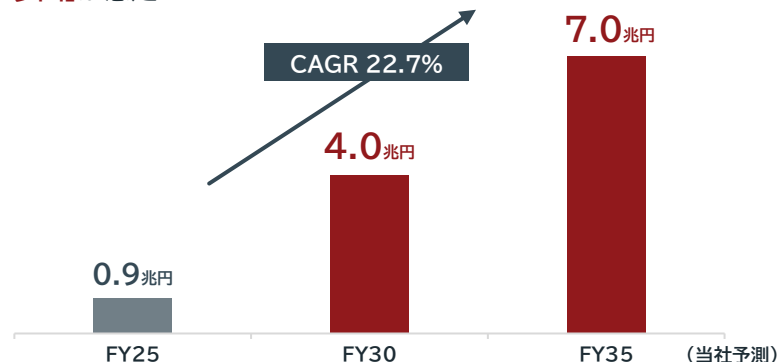
■ 新規事業推進状況

市場の転換点を見据え、
これまで培ったアセットと鴻海との連携を強みに、AIサーバー事業に参入

事業機会

日本市場

- ✓ 今後、AIサーバー市場が急拡大
- ✓ 左記を勘案すると、「推論用途中心」且つ「多様なプレイヤーの参画」が想定



想定される顧客ニーズ

- ✓ AIサーバーの確実な供給(モノの確保が事業者の競争力に直結)
- ✓ ユーザーに最適なスペック提案(≠最新) 及び 課題解決に向けた総合提案(運用/保守、セキュリティ、PoC支援など)
- ✓ ユーザーの事業立地に合わせたきめ細かな保守サービス

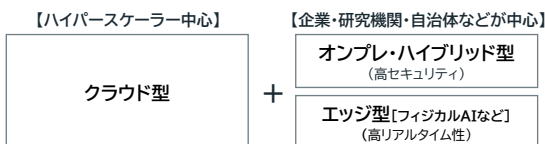
グローバルでのトレンドの変化

学習用途に加え、推論用途が急拡大

構成比(グローバル)	FY25	FY30
学習	約 55%	約 35% ↓
推論 (学習したAIを用いて判断)	約 45%	約 65% ↑

- 最新スペック重視から、ユーザーの利用目的に応じた最適スペック重視へと移行
- 利用地での分散立地が加速

ハイパースケーラーに加え、企業・研究機関・自治体など、多様なプレイヤーが参画



- サーバーに紐づいた多様なニーズが生まれる

当社の強み

鴻海のケイパビリティの活用

- 世界最大規模のAIサーバーの製造能力/調達力
- 豊富なAIデータセンターソリューション
- 主要プレイヤーとの強固なパートナーシップ

幅広い顧客(現場)接点

- 幅広いB2B顧客網
- 顧客課題に対応した多様なアプリケーション

日本全国の保守/サービス網

- 複合機のコンビニ事業で培った全国保守体制
- 全国108カ所のサービスネットワーク網
- 約45年以上のフィールド保守経験

鴻海の調達・製造力を活用し、**2027年度までにAIサーバーの販売を開始。**
日本におけるAIサーバーバリューチェーンの構築に貢献

STEP3
(将来)

- 「フィジカルAI/エージェントAI」領域の**次世代インフラプラットフォーム**
- 現場(エッジ)からデータセンターまでのAI基盤と、顧客課題を解決するソリューションを一体で提供
- **グローバル展開**

STEP2
(FY28頃~)

- AIサーバーの「**構築・導入支援**」に事業領域を拡大
- PCの生産から販売・サービスまで一気通貫で担う「Dynabook」とも連携し推進
- 日本でのAIサーバーの**生産体制**を構築(鴻海と共同で検討)

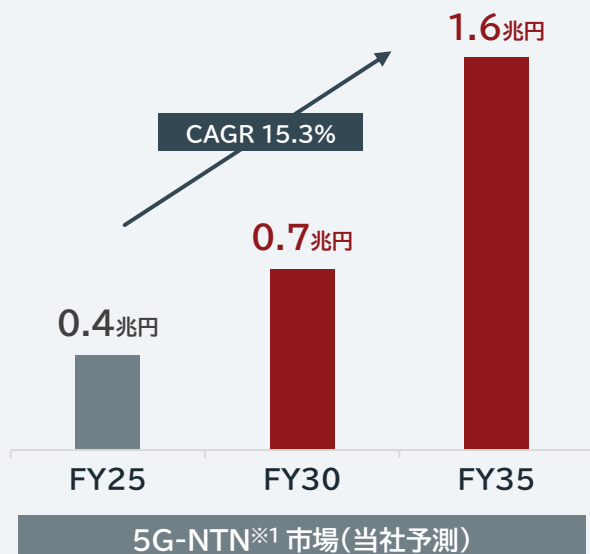
STEP1
(FY26/27~)

- 鴻海の調達・製造力を活用し、AIサーバーの「**販売**」の領域から事業参入(日本)
- 「**運用・保守**」の体制を構築

将来のAI anywhereを支える通信インフラの確立に向け、
世界最小レベルの衛星通信端末を強みに、2027年度中の事業化を目指す

事業機会(市場規模)

- ✓ 従来、衛星通信は独自通信規格で運用されていたが、2027年より5G規格が衛星にも拡張され、汎用性が向上
- ✓ 今後、防衛・船舶・建設など産業ユースから市場が拡大
- ✓ 将来的には、ドローンや自動車など“動く端末”への搭載拡大により市場が爆発的に伸長していく見通し



当社の強み

業界最先端の通信技術

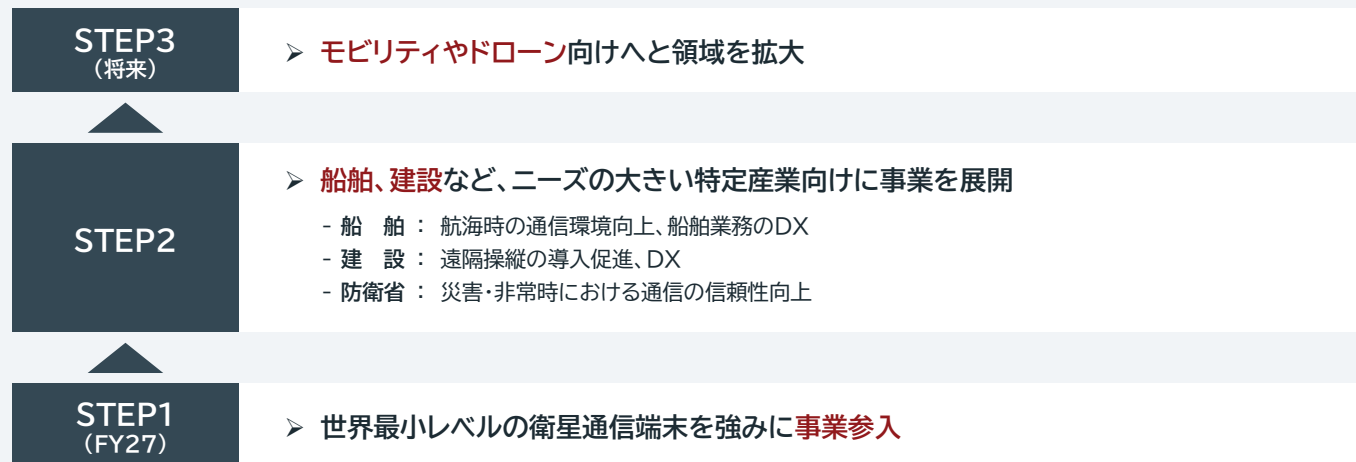
- 世界で初めて、LEO経由の5G-NTNの実証に成功
- 5G規格必須特許保有数で日本企業No.1^{※2}

ハードウェアの小型・軽量化技術

- 衛星通信端末を従来比 約1/10に小型・軽量化し、移動体や設置制約のある現場での活用に道筋



成長シナリオ



パートナー企業との協業により、各領域における取り組みが**着実に前進**

取り組みの推進状況

今後の方向性

	FY2024	FY2025	FY2026
【STEP3】 モビリティ・ドローン向け展開		<ul style="list-style-type: none"> ● モビリティ向け超小型端末の共同開発を開始 [25/7月] <ul style="list-style-type: none"> - 三菱ケミカル、NICT、TECHLABと共同 	<ul style="list-style-type: none"> ● ドローン/自動車向け超小型・軽量端末のコンセプトモデルを公開 [26/4月] <ul style="list-style-type: none"> - 三菱ケミカルと共同でSpace Symposium(米)に出展
【STEP2】 特定産業向け展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 船舶向け端末開発を開始 [24/9月] <ul style="list-style-type: none"> - 古野電気と協業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建設機械の遠隔操作ソリューションの開発を開始 [25/10月] <ul style="list-style-type: none"> - ARAVと協業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 防衛省プロジェクトに採択 [26/4月] <ul style="list-style-type: none"> - JRC・SKY Perfect JSATと共同 - マルチオービットに対応した通信システムの抗たん化技術開発・実証
【STEP1】 衛星通信事業者との協業	<ul style="list-style-type: none"> ● EutelsatなどとLEO衛星を経由した5G NTN通信の接続に世界初成功[25/3月] 	<ul style="list-style-type: none"> ● Eutelsatなどと次世代通信規格Rel-19 NR-NTNに準拠したNTN通信に世界初成功 [25/11月] 	<ul style="list-style-type: none"> ● SESの次世代MEOに適合を目指したユーザー端末のプロトタイプを公開[26/3月]



大手自動車メーカーと車載用端末の開発について具体的協議を推進

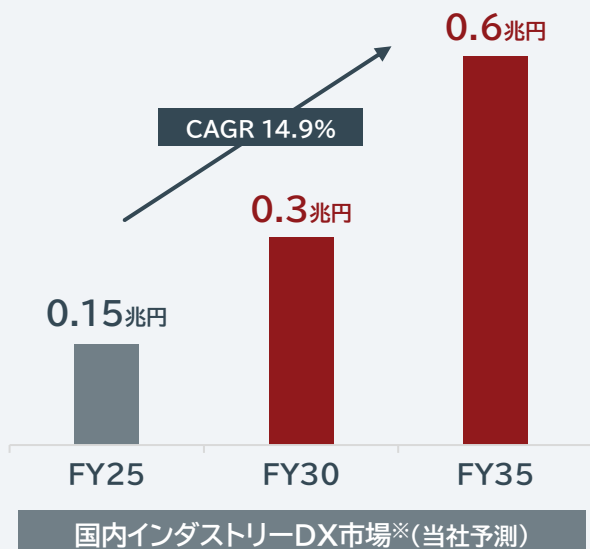
衛星通信を核として各種市場向けにソリューションを含め提供

衛星通信事業者と具体的ビジネススキームを構築

高度な映像・音響技術とAIを活用した制御・シミュレーション技術を強みに、
生活・交通インフラ、建設業界など、多様な産業の課題解決に貢献

事業機会(市場規模)

- ✓ 高度経済成長期に整備されたインフラの更新時期に突入し、検査・点検対象が爆発的に増加
- ✓ 人手不足・人件費高騰・安全規制の強化が重なり、現場作業のDX需要が拡大
- ✓ 省人化によるコスト削減に留まらず、予知保全の精度向上、AIによる作業の自律化など高度化に高い期待



当社の強み

高度な映像・音響技術

- 画像測量処理で、高精度な解析と補正を実現
- 高速映像伝送でリアルタイムな処理を実現
- 撮影困難な場所は、音響解析を駆使し異常検知



現場と仮想空間の最適化

- デジタルツインによる、現場環境の再現・可視化
- AIシミュレーションによる、最適運用と自動搬送



協業パートナーとの実証実験推進状況

重点領域	具体的取り組み	
生活インフラ	下水管 管路検査 × 管清工業、カンツール	上水管 漏水検知 × 各自治体
交通インフラ	パンタグラフ すり板計測 × JR東日本	車両床下検査 × 近畿日本鉄道
建設業界	配筋検査システム × 清水建設	遠隔監視システム × 各建設会社

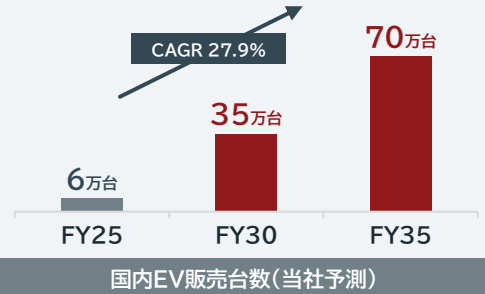
事業機会(市場環境)

参入の狙い・意義/当社の強み

推進状況

EV

- ✓ 新型車の投入や政府補助金の拡充により回復・拡大基調の見通し
- ✓ 今後も化石燃料の高騰が見込まれ、長期的にはEV市場は拡大傾向



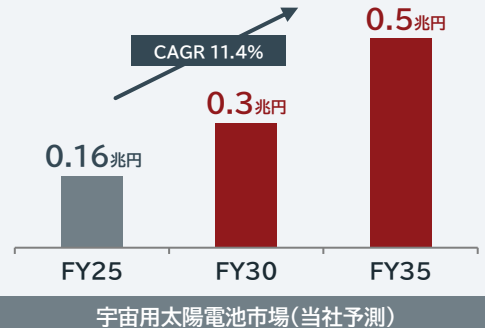
止まっている時間にフォーカスした**独自EV「LDK+」**で新たな体験を提案

鴻海のケイパビリティの活用	<ul style="list-style-type: none"> ➢ コストパフォーマンスの高いEVの製造能力
×	
家電関連技術を応用した空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 様々な特長機器やAI技術 ➢ 使いやすい自然なUI
×	
住宅との連携	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自宅のAIoT家電との連携 ➢ エネルギーマネジメント

市場動向を踏まえて
参入計画を精査中

宇宙用太陽電池

- ✓ 低軌道衛星の増加に伴い、市場が拡大見通し
- ✓ 安全保障を背景に、中国企業の欧米市場への参入が困難な領域



長年培った太陽電池技術で**宇宙開発や衛星通信**に貢献

50年以上の実績と信頼	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 国内唯一のJAXA認定メーカー
×	
世界最高水準の変換効率	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 化合物・シリコン積層型太陽電池モジュールで、世界最高の変換効率33.66%を達成(23/10月)
×	
幅広い製品ラインアップ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 高性能な「化合物型」と低コストの「シリコン結晶型」を保有。用途に応じて最適な提案が可能

2027年度の
新規大型案件獲得に向け推進中

- ✓ 「暮らす」「働く」のあらゆるシーンにAIを掛け合わせ、人の未来を拓く
- ✓ この方向性に沿って、**既存事業の強化と事業変革**を強力に推進するとともに、**成長を牽引する新規事業の立ち上げ**を加速
- ✓ これにより、**成長ステージ**へと歩みを進める

ひとの願いの、半歩先。

SHARP